

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、5月6-7日に開いたFOMC(米連邦公開市場委員会)で、FF(フェデラルファンド)金利の誘導目標を3会合連続で4.25-4.50%に据え置くことを決定しました。

FOMC後に発表された声明文では、米国経済について「経済の見通しを巡る不確実性は更に増している」といった景気見通しの更なる下振れを意識させる文言に修正しました。また、「失業率とインフレ率がともに上昇するリスク」にも初めて言及し、トランプ大統領の関税政策がスタグフレーション(物価上昇と景気停滞の同時進行)を招くシナリオについて、一定の懸念を示した形となりました。

パウエル議長はFOMC後の記者会見で、利下げについて「昨秋と比べて金融環境は緩和されている。そのため、我々は様子見で良い状況にあり、急ぐ必要はないと考えている。忍耐強く対応できると考えており、データを注視していく」と述べ、物価上昇が予想される環境下、景気悪化に備えた予防的な利下げを検討する状況にないとのスタンスを示し、雇用や物価動向など経済情勢を慎重に見極める方針を明らかにしました。

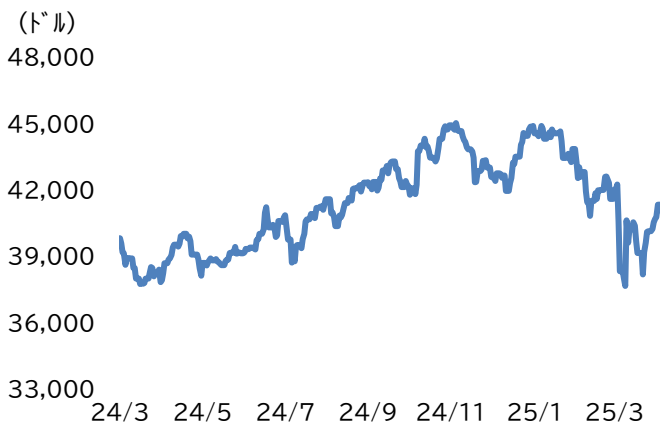
記者会見では、トランプ大統領がパウエル議長を「Mr. Too Late(遅すぎる男)」と称して公然と早期利下げを求めていることを背景に、政治との距離感を問う質問も多く出ましたが、パウエル議長は「我々の職務遂行には全く影響しない。我々は常に同じことをしていく」と述べ、毅然とした姿勢を維持しました。

市場の反応(米国市場)

声明文の発表後、米経済は依然として堅調とのパウエル議長の発言が安心感に繋がったこともあり、NYダウは上昇し、米国10年国債利回りは低下しました。NYダウは前日比+284.97ドル高の41,113.97ドルで取引を終えたほか、米国10年国債利回りは前日より3bp低い4.27%となりました。

外国為替市場では、利下げを急ぐ必要がないとのパウエル議長の発言を受けたドル買いが見られ、前日の1ドル=142円台から143円台まで円安・ドル高が進行しました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2024/3/31～2025/5/7、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

今回のFOMCは概ね市場予想通りの内容で、大きなサプライズはありませんでした。
一方、声明文では景気とインフレ双方のリスクについて言及するなど、FRBの慎重な姿勢かつデュアルマンデート(雇用最大化と物価安定)に対する警戒感が伺える内容でした。パウエル議長はFOMC後の会見でも、経済は依然として堅調だと改めて強調する一方、トランプ大統領の関税政策には不確実性があると発言しました。

金融市場は早期利下げの可能性を引続き織り込みつつありますが、利下げの実施時期は实体经济や関税政策の行方次第です。トランプ大統領が最終的にどのような決断を下し、それが政治的対立等を経てどれだけ実現するかについては多くの不確定要素が残るものの、FRBは今後も経済指標を注視しながら、最大雇用と物価安定の目標達成に向けて適切な舵取りを進めていくとみえています。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
2025/6/5	ECB理事会
2025/6/16-17	日銀金融政策決定会合
2025/6/17-18	FOMC

出所: Bloomberg